
深夜のタクシー

Rail

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

深夜のタクシー

【Nコード】

N3555P

【作者名】

Rail

【あらすじ】

酔っぱらった男が、ふと思い立ってタクシーに乗ろうとするのだが……

飲み過ぎて気分が悪い。

俺はふらふらと道を歩いてた。

さっきまで一緒に飲んでいた同僚は、とっとと自分の家に帰ってしまった。

俺の家だけ方向が外れているので、こうして一人さびしく夜道を歩く羽目になっているわけだ。

が、どうにもこうにも気分が悪い。十本目のビールを開けたところまでは覚えているが、どうにもこうにもその後はおぼろげだ。

酔いがすっかり全身に回ってしまったらしく、まっすぐ歩くことが難しい。

なんで俺は歩いて帰ってるんだ？

そう疑問に思いだすと、どうにもこうにも歩いて帰ることが我慢ならなくなった。

と、ちょうどよく前方からタクシーがやってくる。

フロントガラスの右下を確かめる。軽い近視の上に酔っぱらっているとあって文字が滲んで見えるが、赤い「空」という文字は認識できた。

しめた、空車だ。

俺は手を挙げてタクシーを止める。

タクシーは速度を落とすと、俺の前で止まった。

静かにドアが開く。

「悪いねー」

言いながら後部座席に乗り込もうとすると、座席が突如盛りあがった。

「え」

鋭い牙が俺を頭から飲み込む。激痛と共に、ゴリゴリと骨を噛む音がした。

数分後、無人のタクシーが夜の街を走りだした。その走行表示は「空腹」から「満腹」へと変わっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3555p/>

深夜のタクシー

2011年11月12日19時16分発行